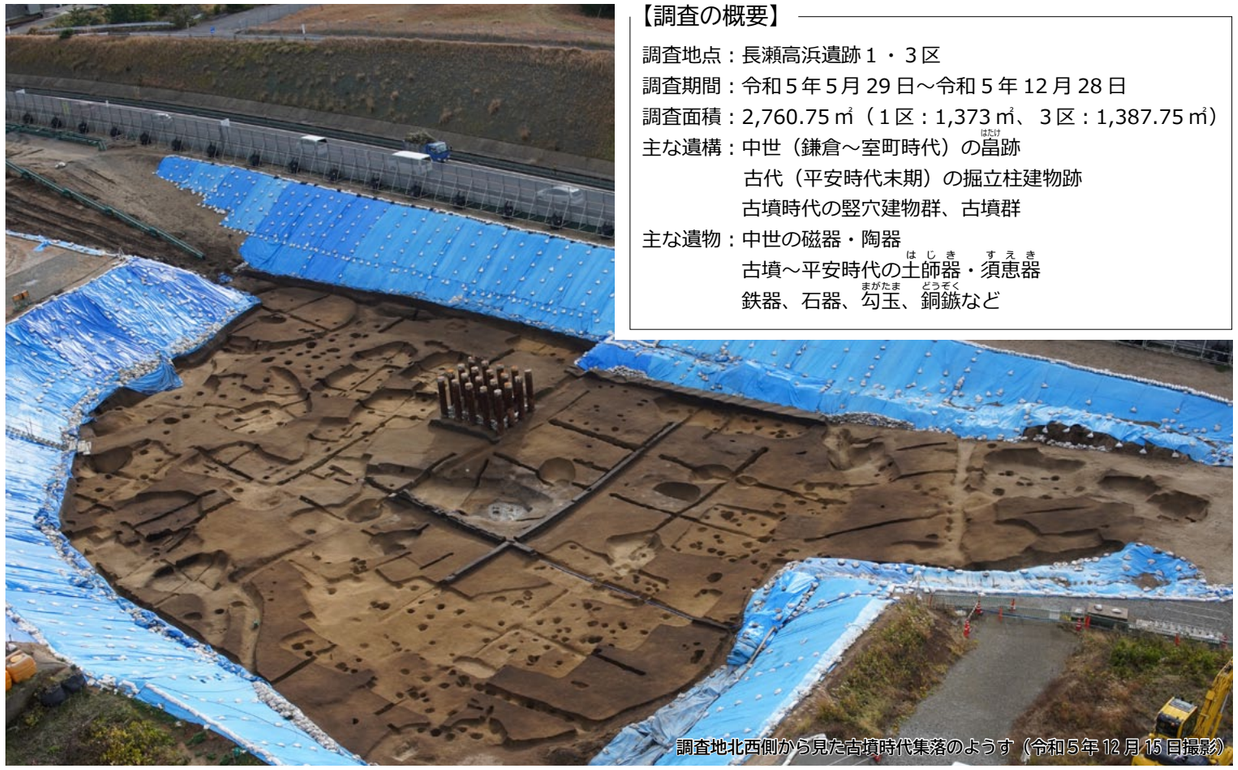
北条砂丘の遺跡を掘る！
（公財）鳥取県教育文化財団調査室広報誌

新・長瀬高浜だより

第４号

2024 年２月 28 日発行

公益財団法人 鳥取県教育文化財団 調査室では、遺跡の発掘調査や出土品の整理作業など、埋蔵文化財の調査を行っています。令和４年度から一般国道９号（北条道路）改築に伴う長瀬高浜遺跡の発掘調査を開始しました。今号では、令和５年度の調査成果についてまとめて紹介します。


調査地北西側から見た古墳時代集落のようす（令和５年 12 月 15 日撮影）

【調査の概要】

調査地点：長瀬高浜遺跡１・３区
調査期間：令和５年５月 29 日～令和５年 12 月 28 日
調査面積：2,760.75 ㎡（１区：1,373 ㎡、３区：1,387.75 ㎡）
主な遺構：中世（鎌倉～室町時代）の畠跡
古代（平安時代末期）の掘立柱建物跡
古墳時代の竪穴建物群、古墳群
主な遺物：中世の磁器・陶器
古墳～平安時代の土師器・須恵器
鉄器、石器、勾玉、銅鏃など

長瀬高浜遺跡とは？　～遺跡の概要と令和の発掘調査～

長瀬高浜遺跡は、鳥取県東伯郡湯梨浜町に所在する砂丘遺跡です。1974 年の遺跡確認以降、下水道処理場建設や一般国道９号改築事業などに伴って行われた発掘調査により、集落跡、古墳などの墳墓、畠跡など、多くの遺構が発見されました。国の重要文化財に指定された埴輪群や、金属製品、大量の土器など遺物も豊富で、鳥取県を代表する遺跡の一つです。

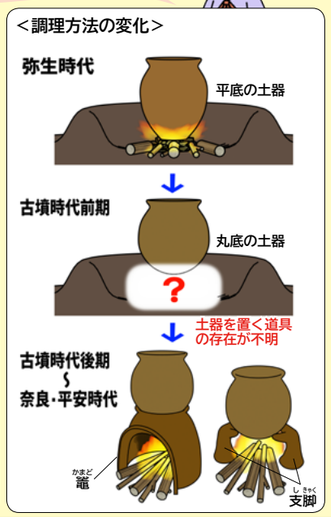
前回の調査から約四半世紀が経過した現在、湯梨浜町はわい長瀬から東伯郡琴浦町槻下までの区間で建設工事が進められている北条道路の工事範囲に遺跡の一部が含まれているため、令和４年度から３カ年の計画で、はわいインターチェンジ付近の約 8,500 ㎡を発掘調査することになりました。

きぬちゃん注目の新発見 !!

ほかに例がない
とっても珍しい発見なのだ！

調査区西端の竪穴建物跡（S249）では、炉跡から土手と筒状の炭のかたまりが見つかり、囲炉裏跡と考えられます。古墳時代の煮炊きに使われた土器は底が丸いことから、何らかの方法で土器を浮かせ、下から火を焚いていたと考えられます。しかし、竪穴建物跡からかまどや土器を置く石の出土がなく、どのように煮炊きしていたのかよくわかっていません。今回発見された囲炉裏跡は、古墳時代の炊飯や調理を解明する上で大きな手がかりとなる可能性があります。

囲炉裏跡（S249 内）



今後の調査について

今回の発掘調査の最終年度となる令和６年度は、令和５年度のさらに東側で行います。令和５年度と同じく、遺跡の実態解明に向け新たな発見が期待されます。また、令和７年度末の調査成果をまとめた発掘調査報告書の刊行に向けて、出土遺物の整理作業も進めていきます。

調査地西側から馬ノ山を望む

最新情報コーナー

発掘調査の最新情報はホームページや Facebook でチェック！YouTube 公式チャンネルでは、遺跡の解説動画や発掘現場リポートを配信中です！

動画続々 UP!!

長瀬高浜だより
THE MOVIE Vol. 8
→古墳時代の囲炉裏を発見 !?

オススメ動画

▼前編・後編の２本立てで、
長瀬高浜遺跡をわかりやすく解説！

▼新発見の古墳について詳報！

YouTube

ホームページ

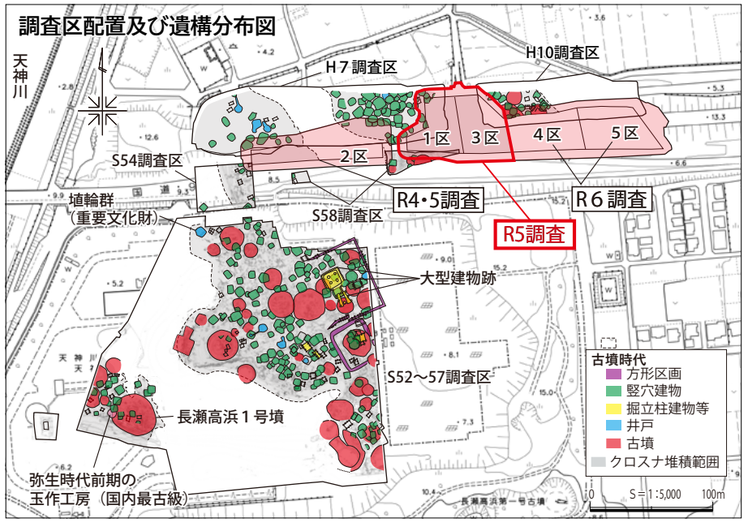
Facebook

発行機関
公益財団法人 鳥取県教育文化財団 調査室
〒682-0704　東伯郡湯梨浜町南谷 528-1
TEL：0858-35-5335　FAX：0858-35-5336
HP：http://kyo-bun.sakura.ne.jp/chosasitsu.html

令和５年度 長瀬高浜遺跡１・３区の調査成果
古墳～室町時代までの生活痕跡を発見

長瀬高浜遺跡１・３区は、遺跡が広がる砂丘の北西部に位置し、現在の地面の標高は９ｍ前後にあります。遺跡は厚いところで約４ｍ堆積したシロスナ層の下、クロスナ層（黒色をした砂層）から見つかっています。このクロスナは砂丘の発達が一旦止まり、植物が繁茂することで形成された地層で、当時は草原のような環境だったと考えられます。

今回の調査では、①古墳時代前半の大集落、②古墳時代後半の古墳群、③平安時代末頃の建物跡、④鎌倉～室町時代の広大な畠を発見しました。古墳～室町時代までの長期間にわたる人々の活動の様子を確認することができました。

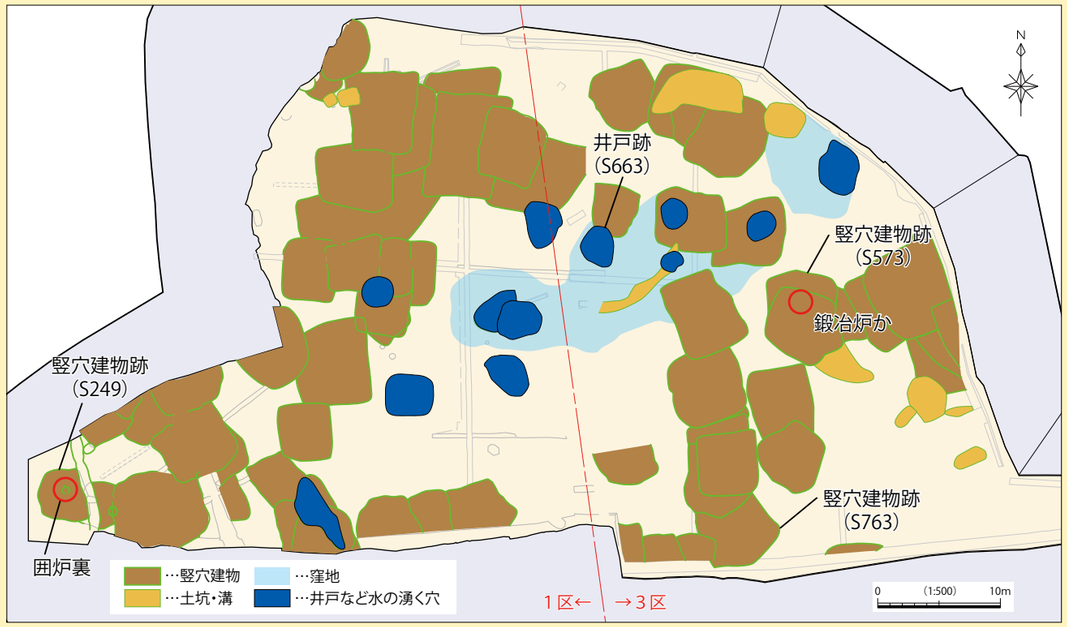


①古墳時代前半の大集落

古墳時代前期（約 1700 ～ 1600 年前）の竪穴建物跡や井戸跡など、大集落の痕跡を確認しました。調査区中央付近は窪地状で、その周辺に 10 基程度の井戸や水の湧く穴がありました。この「水場」を囲むように竪穴建物が分布しています。

竪穴建物は 60 棟以上見つかり、複雑に重なり合うことから、同じ場所で建て替えながら住み続けていたことがわかります。調査区西端の高所につくられた竪穴建物（S249）では、保存状態の良い囲炉裏跡が見つかりました。また、竪穴建物（S573）では、鉄製品の加工を行う鍛冶に関連する可能性がある炉跡や鉄滓が出土しています。

竪穴建物や井戸では、廃絶後に土器を大量に廃棄する様子が確認され、完全な形をした土器や、鉄製品が数多く出土しました。



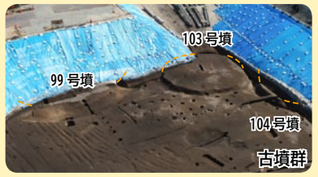
大量の土器が見つかった竪穴建物（S249）

竪穴建物の完掘状況（S763）

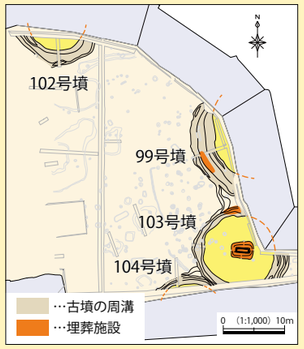
大量の土器が見つかった井戸（S663）

②古墳時代後半の古墳群

古墳時代の後半になると、遺跡は墓地として利用されるようになります。今回は、新発見の３基の古墳を含む４基の円墳と３つの埋葬施設を調査しました。墳丘の直径が約 13 ｍの 103 号墳では、埋葬施設である箱式石棺（板石を箱状に組んだ棺）が見つかりました。石枕とともに２体の人骨が出土し、鉄鏃などが副葬されていました。また、103 号墳と 99 号墳では周溝内からも埋葬施設が見つかっています。いずれも古墳時代中期末～後期頃（約 1500 年前）に埋葬されたものとみられます。



古墳群

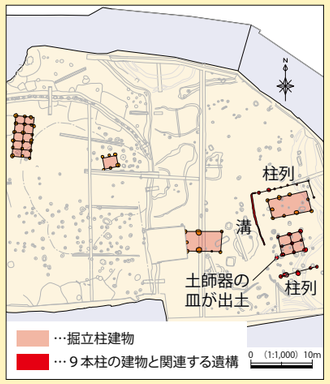


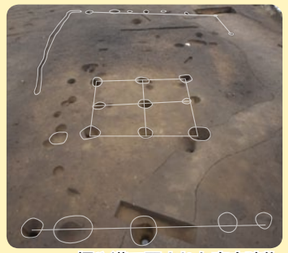
103 号墳の埋葬施設（箱式石棺）

103 号墳に供えられた須恵器

③平安時代末頃の建物跡

平安時代末頃（約 900 ～ 1000 年前）の建物跡を少なくとも５棟確認しました。調査区南東側では、塀や溝で囲まれた９本柱の高床建物が見つかり、近くの穴からは土師器の皿がまとまって出土しました。

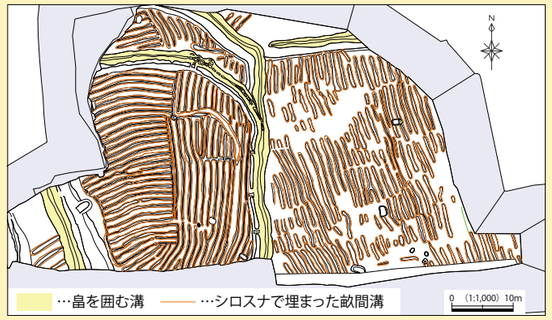



塀や溝で囲まれた高床建物

出土した土師器の皿

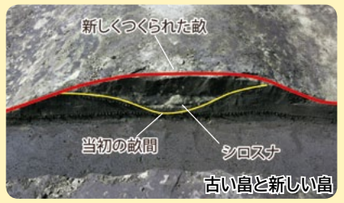
④鎌倉～室町時代の広大な畠

調査区全体で鎌倉時代初頭～室町時代の畠跡が見つかりました。畠跡は異なる方向の畝が溝や畦で囲まれています。耕作土の厚さは約 30 ㎝あり、畝を作り変えながら繰り返し耕作されていました。過去の調査と合わせると約 6,500 ㎡の範囲にわたり、県内で見つかった中世の畠跡としては博労町遺跡（米子市）と並んで最大規模となりました。



畠跡

畝間にたまったシロスナ



古い畠と新しい畠